

令和 8 年大磯町議会

3 月定例会総括質疑（2 月 24 日）

質問議員	質問事項
<p>1 6 番 二宮加寿子議員 (35 分) 9 : 05 ~ 9 : 40</p>	<p>令和 8 年度は「人と自然が輝く大磯」 「大磯に住んでいる人、働く人、学ぶ人、そして美しい自然がもっと輝き、大磯がもっと魅力的になるように全力で取り組む」とのことである。 施政方針で掲げられた今後の町政運営に、新たな計画となる大磯町第五次総合計画後期基本計画がスタートする。 町長就任後、最終年の事業概要を問う。 一般会計 133 億 1, 400 万円 (対前年度比 + 5 億 2, 989 万円、対前年度伸率 + 4. 1%) 特別会計 78 億 8, 500 万円 (対前年度比 + 4 億 4, 300 万円、対前年度伸率 + 6. 0%) 企業会計 28 億 7, 435 万円 (対前年度比 + 4, 934 万円、対前年度伸率 + 1. 7%) 予算の中でも、町立小中学校 4 校の特別教室の空調整備や大磯小学校トイレ改修、体育館空調整備の設計業務に取り組み、G I G A スクール構想に対応した、1 人 1 台タブレット端末の更新など教育環境は質の向上が図られる。 さらに、子育て環境は、大磯幼稚園の認定こども園移行、新たに大磯学童施設のほか、妊娠・出産の経済的負担の軽減が予定されている。 また、安全安心に住み続けられる防犯施策、既存住宅断熱リフォーム補助金、空き家対策補助金の創設、新庁舎整備の他、交通安全対策（運転免許自主返納）や地域福祉活動の支援の拡充が図られる。 「わくわく楽しい地域活性化、防災などに取り組み、大磯町に住んでみたい、住み続けたいと思っただけのような住みよいまちづくりをさらに進める」とあるが、「人」と「財源」の目標達成の計画とさらにはその他の主要事業の進め方を問う。</p>
<p>2 12 番 毛利 泰輔議員 (35 分) 9 : 40 ~ 10 : 15</p>	<p>大磯町総合計画基本構想は、大磯町行政全体の方針が示されるもので、令和 3 年度から令和 7 年度までの前期基本計画と令和 8 年度から令和 12 年度までの後期基本計画として進められている。令和 8 年度は、前期基本計画の評価・課題の対応を含めた、後期基本計画の初年度に当たり重要な年度と理解する。 以下、課題に対しての取り組みと進め方について質問する。</p> <p>1. 新庁舎整備事業（築 55 年経過老朽化、耐震不足、津波の対策として、現在、業者選定中であるが、町民への説明では完成が令和 8 年 3 月から令和 11 年 10 月と 3 年半以上の遅れの状況）での、新庁舎完成までの安全対策を含めた B C P（業務継続計画）の取り組みは。</p>

	<p>2. 公私連携幼保連携型認定こども園整備事業（保育のニーズに対する待機児童対策で、公私連携から公営に、再度公私連携と再スタートで、完成が令和6年3月から令和9年3月と3年の遅れで、現在待機児童“0”は解消されていない）は無駄な時間と費用が発生しているが、早急に必要な待機児童“0”への対応は。</p> <p>3. 消防庁舎の整備事業は築52年経過、耐震不足、津波の対策が必要な状況であるが、その計画の見通しは。</p> <p>4. 大磯町立中学校の給食において、300円／食の補助の施策だが、どのような施設でいつまでに提供するのか。</p> <p>5. 農業・林業・漁業の産業振興策は不十分である。その状況で、ふるさと納税による地場産品の振興で財源確保を図るとあるが、具体的な地場産品に対する連携施策は。</p> <p>6. 高齢者の介護予防目的で「通いの場」は、令和7年予算は16件（町内）であったが、2件増えて11件（町内）のみである。なぜ出来ないかの理由と対応は。また高齢者に対して新たに、「地域福祉活動団体等支援事業交付金」を創設し地域福祉活動の団体を支援するとあるが、社会福祉協議会がすでに実施している支援との関係はどの様に考えて進めるのか。</p> <p>7. 町職員について、「町民の役に立つ場所」の意識を高め、サービスをより一層向上、働き方や安心して働ける職場環境を力強く進めるとある。また、職員「人」が重要と述べられているが、令和6年度・7年度において普通（自己都合）退職者が多いが、これらに対する取組みは。</p>
<p>3 8番 鈴木 京子議員 (35分) 10:35～11:10</p>	<p>町長の令和8年度施政方針を受け、下記の概要と考え方を問う。</p> <p>1. 財政運営について 基金の繰り入れや町債発行が減額されるが、新規事業に係る財源確保について説明を求める。人事院勧告を受けての人件費の影響や物価高騰に対する地方交付税の見通しは。また、基準財政収入額に算定されない財源確保について、見通しはどうか。</p> <p>2. 町独自施策の世代間のバランスについて 子育て世代、働く世代、高齢者世代に分けて、新規の施策や拡充について規模と総額を問う。</p> <p>3. 福祉関連計画の改訂について 大磯町の地域福祉計画、高齢者福祉計画・介護保険事業計画、障がい者福祉計画の福祉主要3計画の改訂に着手する。町民のニーズに対応できる計画内容になるのか。大磯町社会福祉協議会との連携や、重層的支援体制整備事業実施計画の位置づけについて、考え方を問う。</p>

	<p>4. 人件費と職員数について</p> <p>国の施策を受けての市町村事務が増大している中、町独自施策の拡充も求められている。職員の業務量は増え続けているが、人員確保と配置、育成の考えを問う。</p>
<p>4 9 番 石川 則男議員 (35 分) 11:10～11:45</p>	<p>1. 「子育て・教育環境の向上」について</p> <p>(1) 核家族化が進んでいる状況の中、行政の役割も増えてきていることと思う。その中で保育士の処遇改善に向けた町の取り組みを問う。</p> <p>(2) 学童保育所のスペースを整備することは良いと思うが、計画されている場所はふさわしいと言えるのか。</p> <p>(3) 「空き家対策を強力に進める」とあるが、どのように進めるのか。</p> <p>(4) 大磯式部活動の良い点と課題及び今後の進め方について問う。</p> <p>2. 「福祉・医療の充実（健康長寿）」について</p> <p>(1) 「通いの場」は社会からの孤立を防ぐことにつながる良い活動と思うが、保健師派遣の考えや今後の進め方を問う。</p> <p>(2) 高齢者が住み慣れた地域で暮らせるまちづくりを目指すためには何が重要か。</p> <p>3. 「防災・安全安心」について</p> <p>(1) 「要配慮者の減災対策を力強く進めます」とあるが、どのように進めるのか。</p> <p>(2) 75 歳以上の免許返納者対象の「かなちゃんパス」の購入費補助について、本当に免許返納の促進になるのか。</p> <p>(3) 富士見地区の補助路線バスに代わるタクシー補助、児童・生徒の登下校時に車両を借り上げるとのことだが内容を問う。</p> <p>4. 「行政機関」について</p> <p>(1) 「第 6 次定員適正化計画」を推進し力強い体制づくりに重要な視点は何か。</p>
<p>5 13 番 庄子 幸太議員 (35 分) 12:45～13:20</p>	<p>令和 8 年度の施政方針で池田町長は、町の新たな最上位計画である「第五次総合計画後期基本計画」がスタートするにあたり、就任から最大のミッションとして位置付ける「人口減少に歯止めをかける」ための政策として、6 つの主要事業を挙げ、「人と自然が輝く魅力的な大磯町の実現を進める」とした。</p> <p>その自然豊かな環境と落ち着きある暮らしを求め、世代を問わず大磯への移住定住を望む声は少なくないと感じる。一方で、愛着あるこの地域で暮らし続けたいけれど、地域福祉の狭間でやむなく転居するケースなども伝え聞く。</p> <p>また、昨今の災害激甚化のなかで安心して暮らせる地域社会の構築も住み続けられる町として重要なテーマになってきている。</p> <p>そこで、掲げられた主要事業のうち、令和 8 年度から人口減少</p>

	<p>に歯止めをかけるべく進めたいとする新規事業を中心に次の3点について問う。</p> <p>1. 大磯に住みたい転入者の受け皿となる住宅供給対策として、新たに「空き家のリフォーム・解体補助」を開始するということが、町には別荘文化をはじめ古き良き趣のある家屋が数多く残っており、相続の過程で残念ながら取り壊されてしまう事例も少なくない。街並みの維持を図りながら、魅力ある移住定住対策としての空き家対策が進むことを願う町民は多いがどのように進めるのか。</p> <p>2. 社会保障費の増加を背景に、介護予防の取組みは全国的にも喫緊の課題であるが、健康寿命の推進のために町長が就任後進めてきた「通いの場」をさらに前進させるためには地域の協力が欠かせない。その拡大を図るとともに、新たに「地域福祉活動団体等支援事業交付金」を創設し、予算を計上している。高齢者やそのご家族が社会から孤立しないためどのように進めるのか。</p> <p>3. 令和7年度に実施した総合防災訓練では町内のある学校施設の指定避難所においては初めてフルレイアウトの設営訓練を実施したが、残念ながら児童や生徒の参加は少なかった。一方で学校が主体となって実施した中学生を対象とした防災キャンプでは非常食体験や段ボールベットづくりを楽しく学ぶ姿が印象的であった。</p> <p>町長は、「特にこどもや保護者が関心や参加意欲の湧くような新たな取組みを進め、防災教育機会の創出に取り組む」と言われたが、いつ起こるか分からない有事において、若い力と防災への理解をどのように進め、地域の防災力向上に繋げていこうと考えているのか。</p>
<p>6 10 番 おかみゆき議員 (35 分) 13:20～13:55</p>	<p>池田町長が就任して町政運営は節目を重ね、令和8年度当初予算案は一般会計が過去最大規模となった。今後は、新庁舎整備、消防庁舎、し尿処理施設など、優先順位の高い大型事業が同時並行で迫る局面にある。</p> <p>その中で、施政方針には「大磯をもっと前へ」、また「人口減少に歯止めをかける」との趣旨が示されているが、政策は気持ちだけでは進まない。まず町として想定する人口動態を明確にし、人口減少局面でも町民が「住んでよかった」「帰ってきてよかった」「子育てできてよかった」と実感できるよう、限られた財源の中で優先順位を誤らないことが重要である。</p> <p>さらに、人口減少局面で大型事業が重なるほど、「やりたいこと」だけでは回らない。必要なのは、事業の優先順位とセットになった財源確保の実行計画、そして町民に納得感のある歳出改革である。今後3～5年を見据え、何を優先し、何を縮小し、歳出改革でどう財源を捻出し、起債・補助金・基金をどう組み合わせるのか、明確な方向性と実行性が求められる。</p> <p>以上を踏まえ、人口推計に基づく政策の組み立て、財源確保の</p>

	<p>実行計画、ならびに納得できる歳出改革を前提に、次の事項について所見を求める。</p> <p>1. 子育て・教育投資の優先順位について問う</p> <p>子育て・教育への投資には賛成である。一方で、人口動態を考えれば10年後には子どもの人口が減っていく見通しの中で、投資は将来の維持管理負担として残る。よって、いま必要な投資であっても、優先順位を丁寧に検証する必要がある。</p> <p>財源面では地方債等の活用もある中、体育館の空調整備を進める考えは理解するが、一方で空調整備に費用をかけるより先に、体育館の修繕など校舎の整備で必要な箇所があるのではないか。体育館の空調整備、体育館修繕、校舎の長寿命化・安全対策等について、優先順位の考え方を問う。</p>
<p>7 1 番 玉虫志保実議員 (35 分) 14:15～14:50</p>	<p>池田町長の政策の最大ミッションは「人口減少に歯止めをかけること」と認識している。令和7年9月に公表された民間会社のアンケート調査で「住み続けたい町(駅)ランキング」で大磯町が県内第1位、1都3県でも第4位となった結果からも、就任以来「人口減少対策として取り組んできた政策が着実に実を結び、大磯町が全国的にも注目され、転入増加の機運が高まっていると期待をしている」ということだが、大磯町の人口減少は着実に進んでいる。対策をしたから、予想していた人口減少よりも減少のスピードを抑えられていると、一般質問の際に答弁されているが、それでよいということなのだろうか。</p> <p>池田町長が取り組んできた政策には、場当たりのと感じるものが多く、「大磯をもっと前へ」というキャッチコピーを掲げ、当選されたが、前町長の事業の継続を行わなかった大磯幼稚園認定こども園移行事業と新庁舎整備事業に関しては、3年遅れで進んでいる。就任4年目がやっと前に進める1年目であり、1期目の最終年となる。</p> <p>そこで、池田町長1期目の最終年である令和8年度の取組みのテーマ「人と自然が輝く大磯」について質問する。</p> <p>町長は「町民の皆様一人ひとりが町の主役であり、この町を動かす原動力と考えている」という。大磯に住んでいる人、働く人、学ぶ人、そして、美しい自然がもっと輝き、大磯が魅力的になるように全力で取り組んでいこうという思いを込めて「人と自然が輝く大磯」というテーマだが、町長のいうところの「全力」とは、どのようなものか。次の6点について問う。</p> <p>1. 歳入確保についての「全力」は。</p> <p>個人所得の増が期待されることや地方交付税の増は、他の自治体も同様と考える。大磯港駐車場収入とふるさと納税以外で、他の自治体とは異なる大磯独自の歳入確保の取組みは。</p> <p>2. 子育て・教育環境の向上についての「全力」は。</p> <p>「子どもまんなか」の大磯を作り上げていくために、今まで進めて来た「切れ目のない支援」の一層の強化を図り、子どもを産</p>

<p>み・育てやすい環境づくりを推進するという。保護者の環境整備に重点が置かれている傾向にあると感じる。育てられる子どもが置かれる環境について、全力で取り組んでいるか。「こどもまんなか」で子育てや教育環境の向上に取り組んでいるか。</p> <p>3. 文化・芸術についての「全力」は。 わくわく楽しい催しとしての文化芸術祭開催や、企画展示だけが、町が行うことができる文化事業ではない。社会教育費は毎年横這いの状況。「文化・芸術」について町長は全力で取り組むのか。</p> <p>4. 福祉・医療の充実についての「全力」は。 町の福祉に重要な役割を果たすべき社会福祉協議会の運営について、町として社会福祉協議会にできる「全力」の取組みは。</p> <p>5. 防災・安全安心についての「全力」は。 「自分の命は自分で守る」「自助」という考え方を町民一人ひとりが理解を深め、非常時に備えることができるようにするために町が「全力」で今年行うことは。具体的な目標は。</p> <p>6. 町民と議員の理解と協力を求めるための「全力」は。 町長の最大ミッションである「人口減少に歯止めをかける」ための令和8年度の政策を町役場一丸となって進めて行く考えであり、町民と議員との対話を一層大切にしながら、「人と自然が輝く大磯」をめざし、実施する事業に町民の皆様、議員の皆様の理解と協力をお願いするとあるが、そのために町長が行う「全力」は。</p>

7名 26問

※時間は、事情により変更になる場合がありますのでご了承ください。